

令和6年8月16日

文教厚生常任委員会
委員長 綾城 美佳 様

文教厚生常任委員 中平 裕二

文教厚生常任委員会行政視察報告書

下記の日程で行政視察を実施しましたので、別紙のとおり報告します。

記

1. 視察期日及び視察先

令和6年7月22日（月）

兵庫県 明石市

「いじめ・不登校対策について」

「認知症あんしんプロジェクトについて」

令和6年7月23日（火）

広島県

「不登校等児童生徒への支援・対策について」

2. 視察参加名簿

委員長 綾城 美佳

副委員長 米弥 又由

委員 林 哲也

委員 岩藤 睦子

委員 中平 裕二

委員 上田 啓二

委員 ひさなが 信也

以上7名

3. 視察報告・所感 別紙

(別紙)

視察先	兵庫県 明石市		
視察日時	令和6年7月22日(月) 13:30~15:30		
視察項目	いじめ・不登校対策について 認知症あんしんプロジェクトについて		
対応部署名	教育委員会事務局 児童生徒支援課 福祉局 高齢者総合支援室		
自治体概要	人口(令和6年7月1日)	306,961人	
	世帯数	144,548世帯	
	面積	49.42km ²	
	<p>明石市は、兵庫県の南部に位置しています。東西の距離は15.6キロメートル、南北は9.4キロメートルと東西に細長い形で、面積は49.42平方キロメートルあります。市の東側と北側は神戸市に、西側は加古川市、播磨町、稲美町に接していて、南側は瀬戸内海に接する海岸です。</p> <p>また、市の東部には日本の時間を決める基準となる、東経135度日本標準時子午線が通っています。</p> <p>大正8年(1919年)11月1日、当時の明石町が市となり、兵庫県では4番目の市として明石市が誕生しました。人口は約3万2千人、面積は7.7平方キロメートルでした。その後、昭和17年(1942年)に林崎村を、26年(1951年)には大久保町、魚住村、二見町を合併して、今の明石市の形となりました。</p> <p>平成12年頃まで人口は増加傾向にあり、それ以降若干の増減はあるものの30万人前後で推移しています。ここ数年は明石市の子育て支援のおかげで子育て世代の人口増加が目立っています。</p>		
視察内容			
<p>最初に、児童生徒支援課から明石市の、いじめ・不登校対策について、事前質問の解答も含めて、不登校未然防止「早期対応マニュアル」にある、教室以外の「学校内の居場所」の活用、児童生徒支援課との連携、関係機関との連携等の細やかな説明を受けて、質疑に回答いただきました。</p> <p>次に、高齢者総合支援室から、明石市認知症あんしんまちづくり条例及び認知症あんしんプロジェクトについて、事前質問の解答も含めて、基本姿勢、認知症にやさしいまち明石市、基本方針、3つの柱、本人の尊厳確保、家族負担の軽減、地域の理解の促進、あかしオレンジサポーター制度等の細やかな説明を受けて、質疑に回答いただきました。</p>			
所 感			
<p>子育て支援に力を入れて全国的に有名な明石市においても、いじめ・不登校は近年増加傾向にあり、その対策を全市を挙げて熱心に取り組まれている。長門市にも、同じような取組があるが、明石市不登校未然防止「早期対応マニュアル」を参考にしてきめ細かい対策に取り組んで、フリースクール等に通われている児童生徒のご家庭への助成金制度等を開始していただきたい。</p> <p>認知症対策として、明石市の基本方針の3つの柱、本人の尊厳確保、家族負担の軽減、地域理解の促進の考え方を長門市も取り入れて、認知症になっても安心してすごせるまちになれるよう努力していきたい。</p>			

(別紙)

視察先	広島県
視察日時	令和6年7月23日(火) 13:00~15:00
視察項目	不登校等児童生徒への支援・対策について
対応部署名	教育委員会事務局 学びの変革推進部 個別最適な学び担当
自治体概要	面積 8,478.94km ² (国土地理院 面積調 2024年1月1日現在) 推計人口 2,739,446人 (2023年10月1日現在) 人口密度 323.09人/km ² 国勢調査人口 2,799,702人 (2020年10月1日現在) 市区町村数 14市(8区) 9町 / 計 23市町 政令指定都市 広島市 中核市 呉市、福山市
視察内容	
広島県教育委員会事務局、学びの変革推進部、個別最適な学び担当、不登校支援センター、蓮浦課長より、不登校支援センターの主な取り組みの、不登校、不登校傾向及び特別な支援が必要な児童生徒への支援を行う不登校 SSR (スペシャルサポートルーム) (長門市の「ふかまるーむ」に近い教室) 推進校への設置運営支援と県教育支援センター (SCHOOL”S”) (長門市の教育支援センターに近い施設) について、事前質問の解答を踏まえて細やかな説明を受けた後、質疑に応答していただきました。	
所 感	
広島県教育委員会として、先進的に不登校スペシャルサポートルーム (SSR) や県教育支援センター (SCHOOL”S”) の設置及び運営に取り組み、各市町の教育委員会、学校や不登校児童生徒を支援している団体等との情報共有、フリースクール等民間団体との連携体制の構築、教職員研修の実施、不登校児童生徒の社会的自立に向けた支援等の取り組みは、長門市教育委員会も参考にして不登校の未然防止、全ての児童生徒の自由な学びの実現を推進していただきたい。	